

## 小竹だより

練馬区立小竹小学校 校長 泉崎 春海



平成25年12月号

No. 460

## 大きな感動をありがとう

副校長 井上 淳

先月末に行われた学芸会では、各学年の劇を楽しく鑑賞することができました。

**1年生の「いろいろカーニバル」**は、子供たちからのかわいい問いかけがあり、会場全体を巻き込みました。また、赤・青・黄の各色の主張の際の盛り上がりは、1年生のパワーの凄さを感じました。舞台上で子供たちがとてもよい表情で演技しているのを見て、とても嬉しい気分になりました。

**2年生の「あやうし！忍者学園」**は、子供たち一人一人がとても楽しそうに演技していて、見ているこちらまで楽しくなってきました。また子供たちが忍者になりきって、迫力のあるダンスを披露し、子供たちの頑張りがひしひしと伝わってきました。

**3年生の「夢どろぼうウンパッパ」**は、どろぼうたちのギャグから始まり、まるでドリフターズのコントを見ているようで大笑いしました。その上、上手に踊りながら上手に歌うというレベルの高さには目を見張りました。子供たちが自分の役になりきっていて、話にメリハリがあり、劇の内容がより伝わるものになりました。

**4年生の「五色の森と闇の魔女」**は、子供たちが進んで役づくりを工夫した成果がよく出ていました。4年生にとっても5、6年生と同様、小学校生活最後の学芸会。声の出し方、見せ方は、さすがに上学年。観客が聞き取りやすい台詞回しで、まさに、役割ごとに子供たち同士が十分に検討し合った結果でした。

**5年生の「人間になりたがった猫」**は、台詞のない場面での動きや、台詞の間の取り方などが見事でした。また、高学年になると、照明を子供たちで担当するようになり、舞台の演出をすべてまかなうようになります。こうした子供たちの素晴らしい演技・演出に、見ていた私の心は劇に入り込み、思わずうろっとくる場面がありました。

**6年生の「エルコスの祈り」**は、演技・歌ともに最高学年としてのプライドを感じました。台詞の細かい部分や動きの一つ一つまで気を配り、劇の質を高めていました。まさに、自分の演技だけではなく、常に友達のこと考えて劇づくりに励んできた結果です。6年生の劇を見た子供たちは、改めて3年後の自分の目標を明確にしたことでしょう。劇中の台詞「ありがとう」は本当にいい言葉です。

ところで、学芸会を鑑賞するたびに思うことがあります。それは、自分の役割に責任をもって取り組むこと、そして友達のこと考えて取り組むことができれば、相乗効果となって、劇のレベルが著しく向上することです。

どの役もかけがえのないものであり、一つでも欠けてはなりません。これは、普段の生活にも言えます。人は、一人一人かけがえのないものであり、互いに尊重し合い、大切にしていかなければなりません。この学芸会で学んだことを心に留め、子供たちが今後の学校生活に生かせるよう温かく見守っていきたいと思います。

